

熊本県における子実用トウモロコシに適した品種の特性

「P1341」は、子実用トウモロコシとして収量性に優れ有望である。

農業研究センター畜産研究所飼料研究室 (担当者: 室原竜巳・石橋誠)

研究のねらい

新たな国産濃厚飼料として期待されている子実用トウモロコシにおいて、3～4月に播種する作付け体系の品種について子実の収量で100 kg/a以上が期待される品種の品種特性を明らかにし、自給飼料の生産性向上と畜産経営の安定を図る。

研究の成果

1. 子実の水分含量は黄熟期から約3週間後に30%を下回り収穫適期になる。(表2)
2. 「P1341」は他の品種と比べて、年次変動を考慮しても子実の収量性が高く100 kg/aの収量が期待できる。(表3、図1)

成果の活用面・留意点

1. 供試品種は奨励品種を中心に子実の割合が大きくなる品種を選定して試験した。生育状況および収量については、気象条件、土壌条件の影響を受けるため、適期播種と適正な肥培管理を行う必要がある。
2. 虫害による被害が発生した時は、子実の下垂や落下による収量低下が予想されるため、速やかに防除等の対策を行う必要がある。
3. 収穫した子実はカビの発生を防止するために、速やかに乾燥調製や発酵調製を行う必要がある。
4. 「P1341」は3月下旬から4月初旬に播種した場合、絹糸抽出期から約60日後の8月中旬から下旬に子実は完熟期に達し収穫できる。(表1)

【具体的データ】 No. 1155（令和8年（2026年）5月）分類コード 01-11 熊本県農林水産

表 1 P1341 の収穫適期

表 1 P1341 の収穫適期について

播種日	絹糸抽出期	収穫日	絹糸抽出から収穫日まで の日数	有効積算温度
月/日	月/日	月/日	(日)	(°C)
3/30	6/16	8/18	63	1150

2023 年度～2025 年度の平均

表 2 P1341 の黄熟期以降の子実水分の推移

	3月30日	7月25日	8月5日	8月17日
	播種日	黄熟期	黄熟後期	完熟期
子実水分（芯を含む）		52.2	33.8	24.1

表 3 有望品種における収量

	品種名	相対 熟度	有効 雌穂割合 %	乾物収量			合計 kg/a
				茎葉 kg/a	子実 kg/a	芯 kg/a	
2023 年	<b>P1341</b>	<b>115</b>	<b>100.0</b>	<b>115.5</b>	<b>114.8</b>	<b>11.1</b>	<b>125.9</b>
	34N84	108	100.0	82.0	96.9	11.1	108.0
	LG30500	110	97.0	99.0	102.6	10.7	113.2
	P1204	115	100.0	86.3	90.7	10.2	100.9
	TX1334	115	100.0	100.5	95.6	10.6	106.2
	SH5702	118	100.0	98.8	108.4	11.0	119.4
2024 年	<b>P1341</b>	<b>115</b>	<b>96.7</b>	<b>150.4 a</b>	<b>124.9 a</b>	<b>15.3 b</b>	<b>290.6</b>
	34N84	108	100.0	128.3 b	101.2 b	11.9 a	241.4
	JG7024	115	96.7	122.6 b	85.2 b	17.2 b	225.0
2025 年	<b>P1341</b>	<b>115</b>	<b>100.0</b>	<b>131.3</b>	<b>112.9</b>	<b>15.2</b>	<b>259.4</b>
	P1204	110	100.0	114.1	101.1	11.8	227.0
	LG31.588	115	100.0	140.0	76.6	14.7	231.3

1) 1 試験区は条間75cm、株間18cmで栽植密度は741株/a、試験区は12m<sup>2</sup> (3.0m×4.0m) 反復数は3反復とした。

2) 施肥量：たい肥300kg/a、N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=1.5:1.5:1.5 (kg/a)

3) 防除については10葉期前後にカルタップ水和剤にて処理

4) R6年度のみ異符号間で有意差あり (Tukey-kramer test)



図 1 収穫時の子実